

令和2年度健やか親子21実態調査 その2

思春期保健に関する実態調査

報告書

令和3年3月

千葉県

健康福祉部児童家庭課

はじめに

「健やか親子21」は、21世紀の母子保健の取組の方向性と目標を示し、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画として、平成13年から取り組みが開始されました。平成27年度からは、令和6年度までを運動期間とする「健やか親子21（第2次）」が開始されており、思春期保健対策は、次世代の健康づくりに直結するため、基盤課題のひとつに位置付けられています。

これを受け、本県においても「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現を目指す「健やか親子21（第2次）」を推進するため様々な取り組みが行われています。今回、思春期保健に関する現状を把握し、今後の母子保健施策に反映させるため、健やか親子21実態調査その2として「思春期保健に関する調査」を実施しました。

初回調査から20年が経過し、高校生の喫煙率(16.2%→0.4%)や飲酒率(47.7%→3.3%)は大幅に減少しましたが、ひとりひとりの喫煙量、飲酒量が増加するなど、将来の依存症の恐れが心配されます。また、性に対する考え方が多様化していることもうかがえ、昨年度、児童家庭課で開始した「にんしんSOSちば」へ十代からの予期せぬ妊娠などの相談が増加している現状と併せて考えると、性教育や食育・自身の体に関する様々な健康教育の充実について、より積極的な取り組みが必要です。

これらの調査で得られた結果を踏まえ、思春期における健全な心と身体の発育・発達を促すために、思春期保健対策を促進してまいりたいと考えております。

また、本報告書が関係者の皆様のお役に立てることができれば幸いです。

最後に、調査に御協力をいただきました高校生をはじめ、学校関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

千葉県健康福祉部児童家庭課長

尾関 範子

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査対象者	1
4. 調査の方法	1
5. 回収結果	1
6. 調査の内容	1
7. 時系列比較	1
8. 調査実施機関	1
II 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 家族構成	3
2. 日頃の生活	4
(1) 起床時間	4
(2) 就寝時間	5
(3) 朝食摂取状況	6
(4) 家族との夕食摂取状況	8
(5) 夕食を家族と食べない理由	10
(6) 門限の時刻	11
(7) クラブ活動参加状況	12
(8) 母親との会話の状況	13
(9) 父親との会話の状況	15
(10) 毎月の小遣い	17
(11) 親友の有無	18
(11-1) 親友の人数	19
(12) 悩みの相談相手の有無	20
(13) 悩みの相談相手	22
(14) 日頃の意識	23
3. 喫煙	43
(1) 未成年者の喫煙意識	43
(2) 喫煙の有無	45
(2-1) 1日あたりの平均喫煙本数	47
(3) 初めての喫煙時期	48
(4) 心や体への影響についての認知	49
(5) 受動喫煙による健康への悪い影響	50
(6) 煙の成分	51
(7) 肺がんとの関連	52
(8) たばこを吸う家族の有無	53

目次

4. 飲酒	55
(1) 未成年者の飲酒意識	55
(2) 飲酒の有無	57
(3) 初めての飲酒の時期	59
(4) 飲酒のきっかけ	60
(5) 飲酒の頻度	61
(6) 心や体への影響についての認知	62
(7) 急性アルコール中毒についての認知	64
5. 薬物	65
(1) 薬物の認知状況	65
(2) 薬物乱用による薬物依存状態の認知	67
(3) 脳などへの影響の認知	68
(4) 幻視・幻聴に関する知識の認知	69
(5) 薬物使用のすすめを断る自信度	70
(6) 薬物への関心度	73
(7) 若者の薬物乱用に対する認識	77
6. 性	79
(1) セックスに対する考え方	79
(2) 避妊法の認知	81
(3) 避妊法の知識	82
(4) 性感染症に対する知識	83
(5) 保健所の性感染症検査実施の認知	85
(6) 性についての相談者の有無	86
(7) 性に関する関心項目	88
(8) にんしんSOSちばの認知	90
(9) にんしんSOSちばへの相談希望	91
7. 周囲の人々との関わりや行動	92
(1) 赤ちゃんを抱いた経験	92
(2) 赤ちゃんを抱いた機会	93
(3) 育児に対する意識	94
(4) 地域活動の経験	96
(5) 地域活動の具体的活動内容	97
(6) 近所の人への挨拶	98
III まとめ	100
IV 使用した調査票	103

I 調査概要

1. 調査の目的

思春期にある男女の生活や意識の実態を調査することにより、「健やか親子21」をはじめとする母子保健の施策に反映させることを目的とする。

2. 調査期間

令和2年9月1日～10月31日

3. 調査対象者

保健所管轄地域16区から各1校ずつ無作為に抽出された16校に在学する高校2年生3,941人。

4. 調査の方法

学校を通じ、各クラス担任から学生に調査票を配布。各自が記入し、密封した状態（無記名）で回収し、学校ごとに調査実施機関へ郵送。

5. 回収結果

対象者数：3,941人

回答者数：3,740人（回収率：94.9%）

6. 調査の内容

- （1）生活状況（起床時間・朝食摂取状況・相談相手の有無等）
- （2）喫煙（喫煙の有無・入手経路・有害性の認識等）
- （3）飲酒（飲酒の有無・入手経路・有害性の認識等）
- （4）薬物（知識周知・情報経路・使用の認識等）
- （5）性（知識周知・性に対する悩み・相談者の有無・性感染症等）
- （6）地域交流や自己意識（地域活動への参加状況・人間関係等）

7. 時系列比較

この調査は平成12年度、17年度、24年度にも実施され、その結果をもとに一部時系列比較を行った。

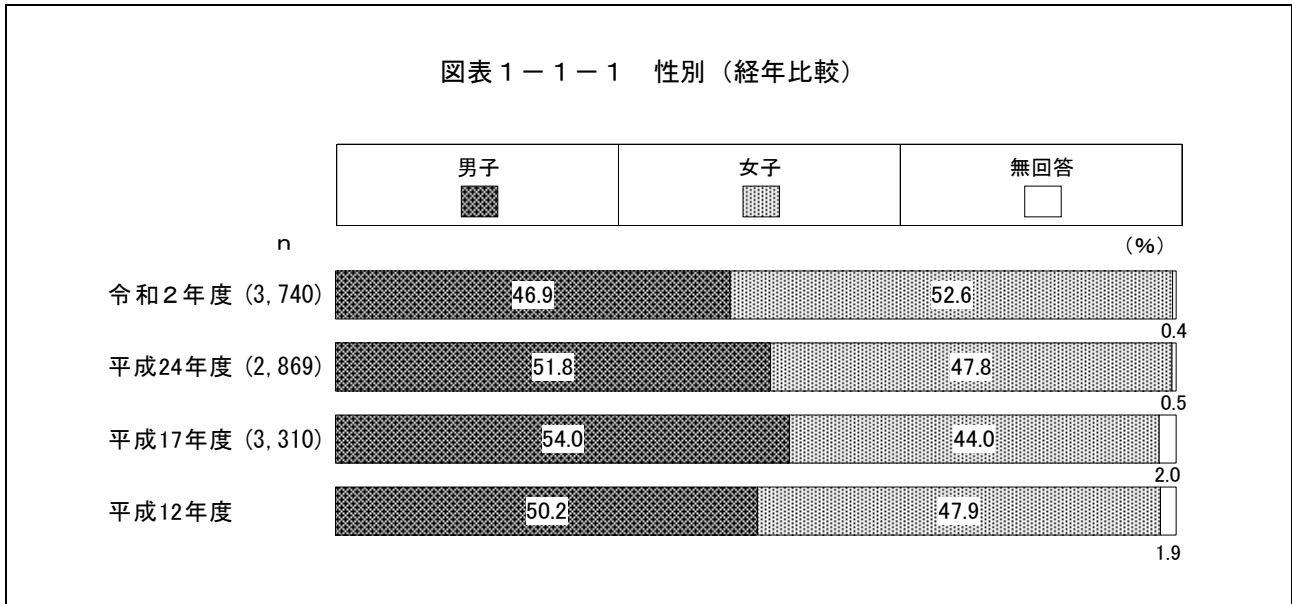
8. 調査実施機関

千葉県が株式会社エスピー研に委託して実施した。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別



性別は、「男子」が46.9%、「女子」が52.6%となっており、「女子」が「男子」より5.7ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、「女子」は平成24年度より4.8ポイント増加している。